

新たな取り組み 川内村におけるワイン葡萄栽培

◆「一般社団法人 日本葡萄酒革新協会(JWIS)」が平成27年度に復興庁所管の「新しい東北」先導モデル事業として川内村の第1行政区と村と連携を図りながら推進。平成28年4月には6,000㎡の圃場にワイン用葡萄2000本定植。試験栽培を開始しました。

◆2020年東京オリンピックに福島産ワインを提供し、世界に向けて「フクシマの復興」をアピールする。

ワイン葡萄定植後の圃場



ボランティアらと葡萄の苗木を植える様子



ワイン葡萄の定植はボランティア等の協力のもと、完了できました。収穫から販売までは約3年間要するため、定植後の維持管理経費について、課題であることから支援策の検討をお願いします。